

# 大阪労山ニュース 2020. 9月号 No.415



撮影：山下宣朗さん（大阪たつの子勤労者山岳会）

場所：剣岩通過後の海岸沿い

説明：数百メートルの渡歩が続いてる。向こうの岩山にある白い斑点は穴。岩山の穴を潜って抜けていく。2020年8月15日（土）8:21

## 目次

- ①Voice ダイヤモンドトレイル縦走大会（木村治朗）
- ②～③7月度理事会報告 ④～⑥教育遭対のページ
- ⑦救助隊からのお知らせ ⑧各会・クラブの近況報告
- ⑨～⑩知床半島先端部地区トレッキング山行報告（山下宣郎）
- ⑪地図にない道・駒ヶ岳（川原健一）
- ⑫森の中の小さな旅・7月・京都府（大西清見）
- ⑬山楽登山の世界30（中川和道） ⑭書評：UIAA 総合登山技術ハンドブック（中川和道）
- ⑮編集後記

当面の間、新型コロナウイルス感染防止のため、編集委員は集まらず印刷と配布は極力少ない人数で行うためB5 16ページの発行となりました。ご了承ください。

（編集長大西）

## 大阪府勤労者山岳連盟

〒553-0006 福島区吉野 3-2-35 一般社団法人 大阪宣伝センター機関紙会館内

☎ 06-6467-8544 FAX06-6467-8545

# Voice ダイヤモンドトレイル縦走大会

長距離縦走委員会 事務局 木村治朗

もう既に告知はされておりますが、残念ながら 2020 年度のダイヤモンドトレイル縦走大会は中止ということになりました。今年に入ってから新型コロナウイルス感染症によって 3 月下旬以降ともに山にも行けない状況になり、4 月に発令された緊急事態宣言は 5 月に解除されたものの一向に収束の気配は見え、「新しい様式」なる言葉が出始め、登山以前に生活自体があらゆる制限を受けるようになり、それがいつまで続くのかもまったくわからない状態になってしまいました。

今年度の第 1 回長距離縦走委員会は 6 月に予定されていましたが、まだ状況的に開催できるかどうかの話をできる世の中ではなく、人の集まる会議自体も開ける状況でもなかったので中止としました。そしてようやく第 2 回の長距離縦走委員会を 8 月 6 日に連盟事務所、Zoom 併用にて開催し、20 クラブ 25 名の出席者により開催可否の話し合いを行いました。

## 開催に反対意見

- ・まだ全然収束していない。
- ・去年のスズメバチ事件のような時、病院の受け入れ態勢は大丈夫なのか？
- ・大阪、奈良と広範囲にわたる地元に理解は得られるのか？
- ・狭い登山道でのすれ違いの感染リスクは高い。
- ・受付やチェックポイントの要員の安全が担保できない。
- ・会で話し合ったが協力できない。
- ・この状態での開催は無責任。
- ・無理してやるメリットもないし、やらないデメリットもない。
- ・開催したところで労山参加者の数も見込めないのでは？

## 開催に賛成意見

- ・対策等を色々と考えて、開催する方向でどうするかを話し合いをしてみては？
- ・開催すると決まれば会として協力したい
- ・この状況は当分変わらないので、待っていても安全に開催できるようになる訳でもない。
- ・参加者と主催者でリスクを分散して開催を目指すべき。

また大気汚染の専門家である河野先生からは、以下のようなご意見を頂戴しました。  
「屋外に関しては空気の流れがあるので、リスクは少ないと考える。屋内はマスクをしてリスクを下げることができる。開催準備をして、ぎりぎりに決めればいいのではないか。」

開催の可否に関してはこれ以上先延ばしにすることはできないとの判断で、色々と議論を尽くしたうえで採決を採り、圧倒的多数にて中止と決定しました。

非常に残念な結果ではありますが、長距離縦走委員会も続けてずっとご参加いただける委員の方も増えてきております。ぜひ来年度パワーアップして実施したいと思います。

## 2020 年 7 月度 理事会報告

日 時：2020 年 7 月 16 日（木）19：30～20：20 ZOOM/事務所

出席会：25 クラブ 26 人、委任状：3 クラブ、常任理事 13 名

進行：大見常任

### ◆子供の冒険学校（大見常任）

- ・夏の子供冒険学校：8 月 1 日(土)坊村

参加者：子供 21 名・父兄 19 名・スタッフ 11 名・計 51 名

7/17 通天閣の大阪モデルの状況見て黄色が消えない場合は中止する。

黄色が消えたら少人数で取り組む事を実行委員会で決めていきたい。

### ◆組織部（浜田副理事長）

- ・会員拡大のためのアンケート 2020 年度版先月提出を各会にお願いしましたが 7/16 現在 10 の会しか出て無いので大至急提出お願いします。ㄦ切 8/20

### ◆女性委員会（近藤常任）

- ・女性委員会の歩みを纏めようと古い資料を基に履歴を集大成するよう準備進行中。
- ・この時期だからこそ山筋体操を取り入れ各会に広めていきたい。
- ・各会から委員を出して頂いていますが取りこぼしの無いようにしたい

### ◆平和と登山委員会（大西常任）

- ・平和大行進 6/30～7/7 今年の平和大行進は、コロナの諸事情で人数制限などの変則的な行進となりました。大阪コースは例年通りの日程、コースで 人数制限が行われるなどの条件はありましたが、56 名もの参加者がありました。7/1.6 の 2 日間は歩き行進は有りませんでした。COWAC の安部さんは 1 人で歩き通しました。
- ・平和と登山の学習会：タイミングを見て開催したい。
- ・核兵器反対署名お願いします。

### ◆障がい者登山（澤村常任）

- ・こもれび：とよの障がい者登山 2020 年 10 月・11 月予定していたが中止
- ・北大阪のぼろう会（KONK）：5 月中止・10 月中止・今年は無
- ・八尾山の会：11 月（保留） 8 月実行委員会の中で決める

### ◆障登 PT（山下常任）

- ・手話で学ぶ登山入門講座の再開に向けて準備中
- ・第 1 回障登 PT 会議：8/25(火) 19 時～ 連盟事務所 1 階

### ◆自然保護委員会（澤村常任）

- ・7/11.12 長野県大町博物館で開催された自然講座に参加
- ライチョウ目撃情報：県連としては大阪府連だけが取り組みしている。

### ◆長距離縦走委員会（事務局木村氏）

- ・8/6(火)長距離縦走委員会 19 時～
- 10/18(日)実施予定 8/6 の会議で参加者の意見を聞いて最終決定します。

◆事務局（高橋事務局長）

- ・総会文書決議書の結果報告

代議員総数 70・賛成 38・委任状 12=50 で成立しています。全ての議案が採決されました。

- ・一般会計予算と遭対特別会計の修正報告
- ・事務所使用について

一階については 15 名以内なら開放します。事務所使用については事務所の入口にも貼っていますので新型コロナウイルス感染予防のため必ず守って下さい。

◆教育遭対部（中川副理事長）

- (1) 全国連盟遭対担当者会議：7/4-5 資料PDF 有ります。ご希望の方は中川まで

基調講義：コロナ沼田医師・熱中症柳川医師

マスクは出来るだけ外そうの方針を確認した

ココヘリの番号を必ず計画書に記入する。

- (2) ULAA イラスト教科書労山創立 60 周年記念：2,200 円 2,000 冊で打ち切り

各会で取りまとめて全国連盟に発注

・山の教室

ZOOM 講習会で進行中 実技：9 月再開するアルパインクライミングの確保

ハイキングレスキュー入門編・ハイキングレスキュー中級編

→ホームページから申し込みを！

・大阪労山事故の事故の記録

50 周年記念事業。2015 年～2020 年の事故のまとめを中心に 1988 年から。

編さん委員会：常任の参加を得た。間もなく発足。

2021 年 2 月発行を目標に。A4 で 100 ページくらいか？

(3) その他

救助隊：隊員研修を再開

学校関係・中級登山学校・各リーダー学校は休み

雪山関係再開できるか？推移を見ている

◆会長・理事長から（代理発言：中川）

山小屋救済のための緊急要望書について

常任での審議を経て、会長・理事長名で、総理大臣あてに緊急要望書を作成し、

6/23、内閣府に郵送した。

◆近畿ブロック代表者会議報告（大見常任）

①搬出講習会について・・・コロナウイルスの感染防止で中止

②近畿ブロックと宮城県連の交流会について・・・コロナ感染防止のため今回は見合わせ

③4/29 滋賀県矢筈が岳で死亡事故発生

8 月理事会 8 月 27 日(木) ZOOM&事務所

以上文責 笠井

## 教育遭対部のページ

### 大阪労山「山の教室」

大阪労山教育遭対部主宰の「山の教室」は新型コロナウイルス対策のため、リモートでの開催と事務所での人数を制限した形での開催に分けて実施しております。お間違えの無いよう、開催場所の確認をお願いいたします。

#### ◆9月、10月の講座

##### ■ アルパインクライミングの為の制動確保(入門編) 座学

日時:9/1(火)19:30～21:00

場所:連盟事務所

費用:500円

**※都合により中止**

##### ■ アルパインクライミングの為の制動確保(入門編) 実技

日時:9/6(日)9:00～15:00

場所:鎌倉峡 百丈櫓

費用:1,000円

**※都合により中止**

##### ■ ハイキングレスキュー(入門編)座学/実技 ※4月延期の振替講座

日時:9/23(水)19:30～21:30(座学)/9/27(日)9:00～15:00(実技)

場所:9/23(座学)連盟事務所/9/27(日)奥山雨山自然公園(日根野集合)

費用:9/23(座学)500円/9/27(日)1,000円

申込:<https://ws.formzu.net/dist/S567544/>



ハイキングや縦走登山でも起こりうる事故や緊急事態に備えるための「お助け4点セット」について学びます。必要最小限のロープワーク(ムンターヒッチ、クローブヒッチ、8の字結び、フリクションヒッチ他)を実習して実技に備えます。

この技術はただレスキューのためだけでなく、沢や雪山などのバリエーションを歩くための技術にもつながります。是非習得して下さい。

実技では座学で学んだ知識を実際に使うやり方を学びます。入門コースではリーダーではなくメンバーとしての最低限の知識を学びます。支点工作やビレイ等はやりません。

※10月のリーダー編を受講予定の方はぜひ入門編から受講をお勧めします。

**※上記講座は事務所定員につき締め切りましたが、過去受講されて復讐のために実技のみ受講希望される場合は別途ご相談下さい。**



## パーティー論リーダー論(入門編 2)「法律との関連」(座学)

日時:10/6(火)20:00～21:30

場所:リモート開催(Zoom 利用) 費用:500 円

申込:<https://ws.formzu.net/dist/S97769791/> ※9/1 から

山に登るにはリーダーが必要です。入門編 1 では、持ち回りリーダー・輪番リーダーという新たなリーダー像と、メンバーの関係について紹介しました。秋の部 10 月 8 日では、登山と法律の関係、とくに責任問題について紹介していきます。「引率登山では責任は大きい、自主登山では安全確保責任を問われた事例はない」と言われています(文献 1)。では、山岳会での事故とか、公開山行や登山学校での事故の場合にはどうなのでしょう？講師の体験をまじえながら、事故と責任について考えて行きます。できたら、以下の文献を読んでみてくださいと有難いです。文献 1～3 が手に入らない方はご相談下さい。

[文献 1]「大阪労山ニュース」2016 年 10 月号 中川和道「大阪府連における登山者養成:大阪の新たな挑戦 2016 その 1」

[文献 2]「登山時報」2013 年 1 月号, 大阪労山ニュース 2013 年 1 月号 2 月号 3 月号「溝手氏講演会『登山と法律』の記録」

[文献 3]中川和道『その救助、法律的に無効』大阪労山ニュース 2020 年 1 月号 p25

[文献 4]溝手康史「登山の法律学」東京新聞出版局、2007 年。

### 冬山の気象(入門編) 座学

日時:9/1(火)19:30～21:00

場所:連盟事務所 費用:500 円

<https://ws.formzu.net/dist/S31216695/> ※9/1 から

冬山の気象に関する基礎的な事項を冬山の特徴をまじえながら解説をします。また、一般に入手できる地上天気図、高層天気図、天気予報などから、それぞれ何に注目して山の天気をどう予想するかを解説します。

## ハイキングレスキュー(リーダー編)座学/実技 ※5 月延期の振替講座

日時:10/29(水)19:30～21:30(座学)/11/1(日)9:00～15:00(実技)

場所:10/29(座学)連盟事務所/11/1(日)奥山雨山自然公園(日根野集合)

費用:各講座 1,000 円

申込:<https://ws.formzu.net/dist/S1104490/> ※9/1 より

※原則として実技と座学セットで受講ください。

まずリーダーとしてメンバーにお助 4 点セットの使用方を教えられるレベルを目指します。

その上で危険個所の通過時にリードとして FIX ロープを張る。またそれをビレイする。

メンバーに指導してそこを安全に通過させる等の一連をリーダー、サブリーダーとして確実にこなせる用練習します。

※リーダー編では入門編でするロープワーク等の指導はしません。基本的な事はできるというリーダー向けの講座です。また極力事前に入門編を受講ください。

# 事 故 一 覧

| No.                                  | 年月日<br>/時間         | 氏名<br>/所属会                 | 山域                                 | 状況・要因など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------|--------------------|----------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2019<br>年度<br>19                     | 2020/2/10<br>11:30 | HY(男性) 55歳<br>大阪ほっぼ会       | 白馬連峰<br>白馬コルナチナ<br>スキー場            | 2020/2/7～2/11 の日程で山スキー 訓練を白馬周辺のスキー場で実施。訓練3日目に白馬コルナチナスキー場コルナチナ第4ベアソフト(最上部ソフト)から通称「真コルナチナ」コースを滑降。コース中間付近で大きな段差を降りた際にスキー板が深雪に刺さり膝を中心にねじられるように転倒。自力での下山を行うが、膝の違和感があり翌12日は治癒で待機後帰阪。傷病名:左膝十字靭帯断裂                                                                                                                                                            |
| 2019<br>年度<br>20                     | 2020/2/1<br>14:30  | HM(男性)47歳<br>泉州勤労者山<br>岳会  | 大峰山脈<br>稲村ヶ岳                       | 稲村ヶ岳に単独登山で入山。下山時、法力峠まで12本爪アイゼンを着用していたが、ほとんど滑り落ちた登山道であったため、アイゼンを外した。下山を再開したが、1095m付近で左足を滑らせ転倒し、左足首を捻挫。立ち上がると左足に痛みがあったが通常の3倍の時間をかけ自力下山した。傷病名:左関節捻挫                                                                                                                                                                                                      |
| 2019<br>年度<br>21                     | 2020/3/7<br>14:00  | KU(男性) 32歳<br>豊中勤労者山<br>岳会 | 八甲山系<br>不動岩 東壁<br>3級ルート            | パートナーと2人で不動岩東壁3級ルートの2ピッチ目登攀中、バジンスを崩して5～6メートル落下。その際、岩に身体をぶつけて痛みがあったため登攀を中止し自力で懸垂下降し歩いて下山。傷病名:左坐骨骨折、両踵骨挫傷                                                                                                                                                                                                                                               |
| 2020<br>年度<br>1                      | 2020/8/2<br>11:30  | F1(女性) 77歳<br>豊中勤労者山<br>岳会 | 北摂山系<br>箕面山                        | オタ原林道から約750m入った騎尾寺南山へ至る山中。山道の樹木の枝から出ていた木に左足首あたりを引っ掛け前方に転倒する。運悪く石が露出した所で右膝を強打した。傷病名:右足膝皿骨折                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 2020<br>年度<br>2                      | 2020/8/8<br>16:05  | AS(女性) 73歳<br>山の会 カラシ<br>ン | 大峰山脈<br>釈迦岳<br>前鬼川<br>大滝           | 14 時頃、事故者のSさんは、滝壺に転落したが、無事に救出できた。そこで、廻行を打ち切り、同ルートの下降を開始した。現場の「大滝」上部にさしかかり、16:05、幅3m、水深20 cm程の水に足をとり、流れに流されて行方不明になった。おそらく、2 段目の滝(10m)に転落したと思い、滝壺に何かうかがうが、滝壺に接近できず、救助要請をすべく、虫に急ぐ。100m ほど下った所で、水流にうつつぶせで横たわるSさんを発見。水流から引き上げて、心臓マッサージを施すもバイタルサインは見られなかった。メンバーの一人、看護師に脈を診てもらったが、「振れておらず」、救助要請を急ぐことにした。18:00 事に到達し、電波の通じるところまで走り、国道口で110 番通報した。傷病名:外傷性ショック死 |
| 2020<br>年度<br>3                      | 2020/8/8<br>14:00  | TH(男性) 68歳<br>山の会 カラシ<br>ン | 大峰山脈<br>釈迦岳<br>前鬼川<br>「豪快な6m<br>滝」 | 14 時頃、死亡事故者のSさんは、「豪快な6m」滝の滝壺(「ドーナツ状の淵」)に転落した。Hは、Sさんを救助するため、滝壺に飛び込んだ。その際、滝壺の中の岩に臀部を打ちつけた。Sさんは無事に救出でき、廻行を打ち切り、同ルートの下降途中、Sさんは「大滝」上部で、再度、滑りし、死亡した。Hは翌日(8/9)、Sさんの療養などののち帰宅し、翌々日(8/10)、ベッドより起き上がれず、救急車で病院に運ばれ、圧迫骨折が判明し入院した。傷病名:第2 腰椎圧迫骨折                                                                                                                    |
| 報告件数 6件 (内 昨年度分3件) (昨年度同時期4月～8月 11件) |                    |                            |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

## 《 救助隊からのお知らせ 》

### 訓練参加者募集のご案内

救助隊では以下の3つの訓練を一般公開し、皆様にご参加いただけるようにしております。ぜひともご参加のご検討をお願い申し上げます。



#### ●岩搬出訓練

日時：10月4日（日）8:30 集合予定

場所：検討中

内容：岩場での救助を想定した訓練 複数パーティーでのレスキュー

持ち物：ヘルメット、ハーネス、自己確保器具等

参加要件：クライミングで使用する基本的なロープワークを習得されている方

#### ●搜索訓練

日時：11月7日（土）～8日（日）

場所：11/7 連盟事務所 11/8 JR 道場駅周辺を予定

内容：下山予定日を過ぎても連絡が取れない遭難者を、搜索する訓練

持ち物：一般ハイキング装備（ヘルメット、ハーネスがあれば持参）

★近郊の山で登山者が下山せず遭難した事を想定した訓練です。

遭難者の所属会と協力して搜索を行う想定の訓練ですので、各会の会長、遭難対策責任者の皆様は、ぜひ参加の検討をお願いいたします。

#### ●雪山搬出訓練

日時：2021年1月24日（日）

場所：検討中

内容：雪山での負傷者の応急手当と搬送訓練

持ち物：ヘルメット、ハーネス、アイゼン、ピッケル等の雪山装備

※いずれも詳細は別途ご案内させていただきます。



**豊中勤労者山岳会 事務局長・遠藤慶**

総会は3月7日に感染予防対策を徹底し、豊中市立文化芸術センター多目的室にて開催しました。その後、3月中旬以降はCLの判断により例会山行を自粛し始め、緊急事態宣言発出後、4月、5月は全ての会の活動を自粛しました。6月から5/25付山岳四団体発行の「自粛」解除後の活動ガイドラインに沿い、近場の日帰り山行から活動を再開しました。運営委員会や班会（豊中労山はA,B,Cの3つの班で活動）等の屋内例会も6月より再開し、事務所とWeb会議を併用しています。7月以降は活動範囲の制約をなくすとともに、一般の方のお試し山行も再開（7/19に1名参加）しました。初級登山学校は4月開校予定でしたが、コロナ影響のため9月開講（9名参加予定）に向けて準備をしています。

**大阪たつの子勤労者山岳会 山下宣郎**

新型コロナウイルスの影響でこれまでの生活が一変し、集団登山と人が多く集まる例会を開催するのが難しい状況だが、私たちも今できる事は何かを考えながら、活動を続けていく。◆オンライン会議（呑み会）：2週間に1回程度、開催している。久しぶりにメンバーたちの顔と手話が見れて嬉しかったとの声が多かった。どこに居ても繋がっている！？恐るべしZOOM！！◆小人数グループでの山行：三密を避けるため、公共交通を利用しないで、車で近郊の山へ行ってきたりしている。個人での山行が増えている。クライミングは穴場グレンデで練習をやっている。◆夏山山行：毎年、北アルプスとか遠征に行くけどコロナの影響で、日帰り山行を選択することが多い。鳥海山と月山、戸隠山、火打山と妙高山へ行ってきた。個人でテント持ち込みが増えている。◆大変な状況ではあるが、一刻も早くいつもの生活に戻れる日がやってくるよう、心より願っている。

**このはな山の会 松本好平**

8月お盆の連休もあり、2～5名程度の少人数での山行を中心に、近郊のハイキング、クライミング、沢登りと各自、各グループで多くの山行を行いました。主な山行は、摩耶山、明神平、東おたふく山、二上山、大台ヶ原、御在所岳、烏帽子/駒形岩、堡塁岩、東トキン岩、八ヶ岳、小川山、瑞垣サカメリ沢、立山龍王岳、赤坂谷、前鬼川、宇賀溪、波豆川、大峰葛川本流、静閑瀬、金剛山石ブテ東谷、黒倉又谷、木曽川水系柿某川本流、西種子川、仁淀川水系安居溪谷、他。

## 知床半島先端部地区トレッキング山行報告

大阪たつの子勤労者山岳会 山下 宣郎

2020年8月3～11日に北海道遠征で憧れの知床半島先端部地区トレッキングと羅臼岳と斜里岳と阿寒岳に行ってきた。

行く前にコロナ渦の第二波で感染者数が増加し始めたので、北海道へ行くか迷っていたが、手洗いとマスクと三密回避を徹底すれば問題ないと判断し、行くことにした。

きっかけは、高橋庄太郎さんの番組を見て知床半島トレッキングに惹かれ、知床岬へ行ってみたく思うようになった。行く前にネットで下調べをした。潮汐表の時刻と潮位も確認した。

単独では厳しそう、不安もあったが、知床の自然にどんなものか興味を持ち、難所に挑戦して壁を乗り越えられてみせるという強い気持ちになった。

出発前日に羅臼町ルサフィールドハウスへ訪問して若い兄さんに分かりやすくレクチャーを受けてもらった。ヒグマ撃退スプレーをレンタルした。取扱説明も受けた。まさか本物のヒグマに会うなんてドキドキしていた。

第1日 8月4日 小雨のち曇り

相泊⇒観音岩⇒トッカリ瀬⇒モイレウシ⇒

剣岩⇒ペキンの鼻⇒近藤ヶ淵⇒滝ノ下

(テント幕営) 12時間

海岸はすべて石浜。テントや3泊4日分の食料の重荷を背負った石浜歩きは不安定で歩きづらい。膝を痛めやすい。

観音岩は高巻き。残置ロープがあるが、劣化でいつ切れるかはわからないので危険。ロープに必要な以上の負荷がかからないように岩と草掴みで登った。残置ロープは滑落防止のためにフリクションノットを利用した。

トッカリ瀬は干潮時しか通過できない。ちょうど干潮時間に間に合っていたので、もう潮が引いており、簡単に岩礁帯を渡歩することができた。

巨岩帯に登ったり下りたりした。ヒグマが岩に隠れているのではないかと恐れながら歩いた。

モイレウシ手前に、帰路中のトレッカー1名と環境レンジャー4名と会った。「パンダが見れた」と興奮気味に言われた。えっパンダがおるの？と思いながら後日になってネットで調べたら分かった。でも見ようという気はなかった。

モイレウシは観音岩と同じ高巻き。垂直近い

概要図：環境省ルサフィールドハウス資料より抜粋



ので残置ロープが付いていた。

剣岩はトッカリ瀬と同じ。もし満潮だったら波で身体ごと海へ引きずり込まれてしまうので、干潮時しか渡歩できない。

近藤ヶ淵は高巻き。『トウゲブキ』という黄色い花が一面に咲き乱れた。

近藤ヶ淵の高巻きルートが不明瞭で探すのに時間がかかった。獣道がいっぱいあった。

男女女滝にテント設営する予定だが、残り時間が足りないので、滝ノ下手前に変更してテント設営した。

重荷を背負って12時間以上に歩いたので、体がクタクタになった。明日に知床岬まできつと行けるんだと思い、飯を食って早めに寝た。

第2日 8月5日 曇り時々雨

海からの日の出が見えた。朝飯を食って、テントをデポして、熊対策としてテントにある

食料とゴミをすべてザックに入れて出発した。念仏岩手前にある男滝女滝に朝早くから人がたくさんいた。あれ？ルサフィールドハウスで会った若い兄さんもいた。目的はフィッシング。港から小船で来たようだ。

別れて念仏岩に向かって行った。念仏岩は高巻きだが、難度高く本当にビビったが、慎重に残置ロープで登り下りた。念仏岩をクリアした後、最後の難所カブト岩に向かった。高さ100mまでに高巻きをしなければ知床岬にたどり着けないと言われている。高巻き入り口に着いてから登ると、あれ？踏み跡がなくなっていた。おかしいなと思いながら別の踏み跡を探した。見当たらなかった。突然の雨で土がドロドロになって滑りそうになった。クライミング経験のある私は往路で岩に登れるが、問題なのは復路。ザイルなしで下りるのは危険だと判断した。断腸の思いでカブト岩から撤退することを決めた。

それから帰途に就く。難度高い念仏岩に高巻きをして滝ノ下に戻り、テントを撤収して近藤ヶ淵には高巻きせず、海側の岩礁帯にへつりをして、剣岩に通過して、モイレウシ手前までに無事に戻った。テントを設営した。

滝ノ下（デポ）⇒念仏岩⇒カブト岩（敗退）  
⇒念仏岩⇒滝ノ下（テント撤収）⇒近藤ヶ淵  
⇒剣岩⇒モイレウシ手前（テント設営）10時間



第3日 8月6日 曇りのち晴れ  
モイレウシ⇒トッカリ瀬⇒観音岩⇒相泊8時間

巨岩帯や石浜歩きでだんだん膝の痛みが強まっていた。ツルツルした岩の上で足を滑らせるので、神経をすり減らしながら歩いていった。無事に相泊に着いたとき、ホッとした。幸いヒグマに会わずに済んで安堵したが、距離が離れて、せめてヒグマの姿を見たかった。単独と装備を考えるとカブト岩での撤退は正解だと思っている。が、高巻き入り口を間違えたのではないかと気になってしょうがない。憧れの知床岬にたどり着けなかったことは心残りだが、知床の大自然とスリル感を楽しめて本当に満足している。

ルサフィールドハウスに戻って借りたヒグマ撃退スプレーを返却。次の日には休養と温泉で、疲れた体の回復を努めた。

8日には羅臼岳、9日には斜里岳、10日には雌阿寒岳と阿寒富士に登った。これで百名山のうち、北海道9座をすべて制覇した。

最後にルサフィールドハウスからのメッセージを引用する

『人はその雄大な自然に尊敬と畏怖の念を抱かずにはいられないだろう。知床を訪れるすべてのトレッカーへ。』と。



地図にない道 2020/8/8/SAT-9/SUN

## 甲斐駒ヶ岳 2967m/日向八丁尾根

山の虫クレマントクラブ（略称 YMCC） 川原健一 同行：川原 薫

2016年、北海道シリベシ（後方羊蹄）山を登ってから、100名山100座目となる甲斐駒ヶ岳を随分ほったらかしにしてきた。その理由は混雑である。ゆえにシリベシ山以前に2月の山行も試みたが、強風に阻まれ登れず仕舞いだった。

コロナ事情等で林道バスが走らなくなり、峠から気軽に山頂を極める事が出来なくなったため、人が少ないと予想されるこの時節、行かない理由が図らずも無くなり、ではこの際と鋸岳までの縦走を計画した。

8/8/土

金曜日から登る予定だったが、七丈小屋テン場が満杯とのことで、尾白川溪谷駐車場で車中泊し、土曜日朝からゆっくりと登ることとした。日帰り軽装の登山者や、もっと軽装のtrail runnerに道を譲りながら登っていくと、段々と陰しくなり、それにつれて高山の雰囲気が増していく。朝はガスっていた山頂は私達を待っていたかのようにきれいに晴れた。鳳凰三山、北岳、間ノ岳、仙丈岳、行く末に遠く鋸岳の雄姿が浮かぶ。まだ踏まぬ鋸岳は思い描いていたよりもより素敵な姿であった。あの山頂からの眺めも秀逸と聞く。

踏み跡疎らな甲斐駒の北西尾根をルートファインディングしながら避難小屋ビバーク地に向かって歩く。時折逸れるがあまり尾根から離れずに途切れがちな踏み跡がある。

ツェルトを張るつもりだったが、避難小屋にはお一人居られるだけだったし、この後来る人も無かろうとのことで泊まることにした。同宿者は横浜のkさん、労山に入っておられるとのことで、多彩な山行活動等の話で盛り上がった。

【コースタイム】 尾白川溪谷P 05:35  
11:10 七丈小屋  
14:35 甲斐駒ヶ岳  
16:35 6合目避難小屋

8/9/日

昨夜は強風が吹いた。昼から晴れるだろうが、鋸岳までの道は陰しく長い。時間はあるが温泉が恋しくなった。鋸は割愛し、予定の日向八丁尾根を下る。

この尾根道は国土地理院地図にはまだ破線さえ記されていない。尾白川溪谷駐車場から5時間で来たと言う青年が大岩山で昼食中の私達を追い抜いた。ここはtrail runnerのメッカ、知る人ぞ知るgood routeなのだ。それにしてもここまで5時間は凄い。

日向山の風化花崗岩の景色を堪能し、無事下山。入場制限された小淵沢の延命の湯で汗を流し、帰路についた。

【コースタイム】 6合目避難小屋 06:25  
07:40 烏帽子岳  
10:30 大岩山  
13:20 日向山  
15:30 尾白川溪谷P



甲斐駒ヶ岳北西尾根を6合目避難小屋へ向けて下る。遥かに鋸岳の威容



## 森の中の小さな旅 7月、京都府の森に行く 泉州労山 大西清見

今年の3月からコロナ禍で仕事や趣味などの生活が一変しました。私の感覚も今まで潤ってきた「密」から忘れられていた「疎」の世界へ。そんな中、両親の居る実家(京都府伊根町)に帰省する度に、生き生きした風景に出会います。コロナ感染ゼロ、みんな農業に漁業に、今まで通りに普通に働き、普通に生活している空間がありました。このような、みんな頑張っている過疎地域をもう一度見直し、評価していきたいと考えました。

これからは当然(あるいはずっとかも)、コロナと共存していかなければなりません。みんなお互いに、コロナに感染しない、コロナを感染させない努力が求められてくることは必然です。このコロナ禍で厳しい実情に怯んでばかりではおられないのも現実です。発想を超えて、このコロナの感染防止を心掛けながらコロナに上手に向き合っていくことも求められます。ということで、7月から山歩き活動を少しずつ始めていきました。まずは京都府の二つの森の旅です。

7月4日、京都府綾部市の農村・光野で実施された絶滅危惧種ヒメザゼンソウの現地説明会に行ってきました。6年前に発見され、京都府立大学と調査を進めてこれ、やっとこの夏に公開されました。その花の由来は、その花のかたちから。仏さまが座禅しているような姿に見えるのは、小さな花がたくさん集まった花序(肉穂花序といいます)です。その仏さまを背後から取り囲むのは、濃い紫色の葉です。ザゼンソウという植物の小さいもの、という意味で「ヒメ」という名前が最初についたそうです。この綾部市光野は綾部市を貫流する由良川の支流、上林川の上流に位置する農村です。現在、人口は27人、過疎・高齢化が進み、6年前から「水源の里」の取り組みを開始し、地域の振興と活性化を図るための活動に始めたばかりで、今回のヒメザゼンソウの発見は絶好のタイミングでした。また、来年に会いに行きたいものです。



葉が展開した後には花序が出る小型のヒメザゼンソウ、左右の写真からその小型さが分かりますね

7月18日～19日、アマチュアカメラマンの友人と京都府南丹市美山町の芦生に行ってきました。宿は茅葺きのユースホテル、京都府のコロナ禍でのキャンペーンで2500円の割引と貸し切りでラッキーでした。一日目は梅雨晴れ間で、昔枕木用に栗材や杉を運んだトロッコの廃線路を由良川沿いに歩きました。どんなに雨が降っても濁らない由良川、トロッコ道の沿道はブナなど自然林の美しい森が続きます。トロッコ道も貸し切り、芦生初めての友人も、美しい川の流れと森にデジカメのシャッターを頻りに切っていました。二日目は晴れ、芦生北西、福井県境の八ヶ峰(800m)に。久しぶりの登山でした。往路は約1時間30分、カエデ、ミズナラに時々ブナなどの広葉樹の美しい気持ちのいい道が続きました。

編集後記のページに続く…

## コロナ下の登山の実相記録 2 今は「そんな時代もあったね」のまだ序盤

OWCC 中川和道 20200815

ワクチンがないのだから、コロナ禍は、まだ序盤だ。日本はまっさら。ヒト人も歩けばコロナに当たる、たちまち感染増大だ。そのうえ、熱中症の症状（発熱、だるさなど）はコロナと似ているので、医療への負担は本当に大きい。7/16 夏山連絡会で柳川さんがおっしゃったとおり、登山者には格別の注意が求められる。マスクをはずすタイミングを探そう、という呼びかけをどう実践するかについて、日本山岳ガイド協会のビデオ <https://www.youtube.com/watch?v=IHkIYagmsM> が参考になる。一見をお勧めする。六甲山ロックガーデンでの収録で、なじみも深い。「まずマスクを外しましょう」という冒頭の山本ガイドのご発言は嬉しくて衝撃的でさえある。

さて、中川の地元生瀬駅はあの有名な「旧福知山線廃線敷」の入口だ。廃線敷に向かう人々を、中川はほぼ毎日見つけてきた。4月9日の緊急事態宣言のあとも、ほぼ毎日、廃線敷に向かう人々がおられた。彼らは、自粛期間中にハイキングをあえて実行したご本人たちだ。彼らは何を感じておられるようだったのか、彼らに中川はどう接したのか、その実相を書いてみよう。

4月9日の緊急事態宣言でその数はさすがに減ったもののゼロにはならなかった。馬力をもてあましておられる若者たちがまずポツポツとやってきた。電車を降りるその方々はみんなマスクだ。前50mにも後50mにも誰もいないのに、おひとりマスクの方や、マスクに身を固めたカップルだ。マスクとは、他人との不要なあつれきを避ける必須装備なのだと中川には見えた。

中川も地元公園めぐりハイクの何回かは、廃線敷に行ってみた。木ノ元バス停から176号線をわたり、簡易トイレ（兵庫県連がJRに申し入れて設置）を過ぎると、廃線敷入口だ。名塩川橋梁、姥ヶ懐川橋梁を過ぎる。4月5月の週末には、同じ向きに3パーティー、武田尾方面から歩いてくる向きに3パーティーくらいに出会った。平日は1パーティーくらいだ。中川は、毎回、北山第1トンネルの手前でやめる。トンネルの中は換気がなくこわいからだ。

ある週末1回だけ、北山第1トンネルの手前で、マスクをしていない若者4-5人のグループが岩に腰かけ、氣勢をあげていた。中川を見つけると「地元のうるさいジジイが文句をつけにきたのか？ お前がうわさの自警団か？」とでもいいような雰囲気、50mくらい手前なのに、大声の話をやめて、中川をにらむ。恐れ入った。トンネルからご夫婦らしい初老のお2人が出て来られ、幸い、第3極ができた。ご夫婦は右側通行、中川は左側通行なので、衝突コースだ。中川が右側通行に移ると、お2人は遠くから会釈を返し、おだやかにすれ違う。「生き返ります」とマスク越しに話を交わす。その様子に若者グループも穏やかになり、目であいさつを交わして、その場は終わった。ほっとした。こんなことで不愉快が生じてはたまらない。えらい世の中になったものだ。

5月末まで延長された自粛期間中に廃線敷を訪れた方々の中には、何だか思いつめたような表情の方もおられた。決まって平日のことだった。よほどのストレスを晴らしに来られたのだろうか。笑いや明るさを感じられないそのご様子に、ごあいさつを中川は思わずはばかった。

以前、MLに書いたのだが、何年か前、生瀬駅で足元がおぼつかない高齢のご夫婦を見かけた。廃線敷に行くというので中川は止めようとした。電灯・携帯・水など装備は問題なく、前後に大勢の人が歩いていて晴天。ご夫婦は昔から何度も来て道はよく知っておられ、老人ホームに入ることがきまったので、その前の思い出に、と来られたらしい。中川はあんな方々まで自粛はおかしいと、今回、改めて思い返した。むしろ尊重すべきでガイドしたい。自粛すべきは3密であり、3密を避けた廃線敷ハイクはあってよい。8/13 朝日新聞：戦時中パーマ自粛動員の中、空襲の前にせめて日常をと、パーマ屋をつぶさなかった店主の心意気が、あのご夫婦に重なる。政権に始まり日本を支配し個人の尊厳を圧迫した4月5月の自粛動員、あれで正当とは中川はととても思えない。

マスクをしないで廃線敷に向かう人を初めて見たのは6月になってからだった。家族連れがどつと増えてにぎやかな笑い声が戻って、うれしかった・・・。

ところが、この感染第2波だ。またまたマスクの廃線敷に戻った。自然も廃線敷も変わらないのに、人間だけが右往左往せざるを得ない。ワクチン完了まで1年？ コロナ禍は、まだ、序盤だ。

## 書評：UIAA 総合登山技術ハンドブック 夏季 アルパイン（抄録）

OWCC 中川和道 20200815

山岳スポーツクライミング協会 JMSCA 創立 60 周年、労山 JWAF 創立 60 周年記念と銘打って表記の日本語版が出版された。著者は UIAA とペツル財団、訳者は労山全国理事の大和田英子さん。類書の[1] Ronald C. Eng 編 ”Mountaineering 8<sup>th</sup> ed.” (2010、596 ページ、アメリカ標準の教科書でバイブル並みの人気とか)、[2]文部省「高みへのステップ」、[3]ヤマケイ「登山技術全書」（新版順次出版中）などと読み比べるとがぜん面白い。詳細検討は機会を改め、ここでは抄録を書こう。

何よりも、イラスト本だ。言語の障壁がぐっと下がる面があって嬉しい。P259 などじっと眺めて解読の歩を進めるのはじつに楽しく、次も次もと、ひと晩が過ぎてしまう。

ペツルのカタログを技術参考書として愛読するクライマーは実は多い。中川もそうだ。登山用品店 ICI などでもカタログをあさり PDF が一般的になる前はゼロックスコピーして講習会で使った。2010 年からは PDF をダウンロードして活用した。本書前書きによれば、こうした現場の声を背景にネパールの講習会で好評を博し、UIAA とペツル財団の共同出版に至ったという。これはいい。

大阪労山の柳川憲一さんが専門家として作業に加わられた。本書では、翻訳者の英断で、クライマーの日常語で訳されている点が注目だ。2010 年版カタログで言う Directional anchor をゼロピン、長いスリング Quick draw をアルパインヌンチャクなどと訳した英断である。海外登山や海外クライマーとの交流では気をつけたい。

本書の期待される読者は、リーダー候補生だ。ガイドではなくボランティアリーダーである。前書きのとおり「すでに習ったがまだ会得できていないので復習して地固めを」との人々だ。一方、初めての人は要注意だ。まず誰かから学ばないと、この本でいきなりはきつい。意味が分からず混乱さえ生じそう。例えば、p339 滑落停止の複数のやり方のイラストには右利きの例と左利きの例が混じっているのが混乱しないように。この事情は、アメリカの[1]の 16-28 図と同じだ。P205、p206、p215 では暗黙の了解で手袋なし確保の写真を載せ、日本でのテキストとしてはまずい。

さらに、日本とは違う内容、日本では使えない内容も多い。そもそも「夏季」という副題なのに「夏の雪崩」の章がある。夏のヨーロッパアルプス山稜は 5 月滝谷に類似だからと吉尾弘さんたちはトレーニングしたのだから雪崩もありだ。日本の夏季ではありえない。一方、日本の山登りでは愛される「沢登り」がない。アメリカの[1]でも、危ない水流を避けるという半ページしかない。ピッケルを左右の手に持ち替えるという動作は文献[3]では遠藤晴行さんが記されているが、海外では禁止事項で、ヒマラヤガイドには、まずそう諭される。ピッケルバンドは手首にしかつけない。

要するに、この本は、ヨーロッパ標準テキストだ。アメリカ標準[1]とも日本[2][3]とも異なる部分も多い。それだけにとどまらない。前書きで、「バイブルではない」「たったひとつの技術しか認めないというものではない」「参考例である」「どんどん発展している」などと書く。実際、ステイブ・ロング氏が神戸の登山研修所訪問 2010 のさい、あの人工壁を登るのにブーリン結び p190 をした。「たったひとつの技術しか認めないことはない」という姿勢で、その姿勢にみんな驚いた。未完成の記述 p196、p258 もある。下からの懸垂補助、3 人つるべなどは今、開発だ。

本書にほれ込んだ点を書く。(1)トレッキング活動を「アルパインハイキング」p135 とまとめ、示唆に富む実用的な記述を展開した。(2)p169、p269、p351 などに「評価と反省」をあげ、リーダー候補生の精進を促した。(3)冊子体でなくスマホを現場に持ち込もう、と訳者は労山会合で宣言された。日本語版アプリの発売が待ち遠しい日々である。最後に、私たちの標準は私たちで作ろう。



### \* 森の中の小さな旅より続く

ゆっくりのんびりが、これからの私の登山のスタイル、気持ちの良い山歩きでした。芝生に覆われた広場のような山頂からは 360 度見渡せました。特に若狭湾方面への展望がすばらしく、舞鶴の双耳峰・青葉山も確認できました。やはり登山の喜びは、頑張って歩いて登頂したひと時と自宅に帰って一日を振り返ることにもあるようです。また芦生の森の旅が続きそうです。



由良川沿いのトロッコ道



トロッコ道の間接点是小ヨモギ作業所跡  
付近、素晴らしいブナ林がありました

### 編集後記

3 月～5 月は、コロナ禍絡みで自宅中心の自粛生活がつづきました。その後、6 月からコロナ第二波へと続く中でも仕事(非常勤講師)も始まり、山歩き再開もあって少しずつ日課を取り戻してきたようです。手洗いとマスクと三密回避を徹底させ、7 月もちよっと遠い山へも。8 月 10 日は岐阜県北部の天生湿原～初穂山に行ってきました。現地の白川村・飛騨市はコロナ感染者ゼロ、天生湿原のパトロールの方たちは大阪からの来訪を快く受け入れていただきました。夏の湿原も素晴らしく、朝一のたった一人の貸し切りの森と花が楽しめました。シラヒゲソウやシシウドなどの白い花が湿原の清流沿いに咲き、質素な花の美しさにいつまでも見とれていたのです。コロナのことをすっかり忘れてしまう、こんな山旅もいいものです。

(大西清見)

\*\*\*\*\*

今月も各会より会報を送っていただきました。

安治川山の会ニュース(安治川山の会)、やまなかま(泉州労山)、きたろうニュース(きたろうHC)、にしよど(西淀労山)、ぽんぽん山(高槻)、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、京都労山、噴煙(鹿児島労山)、兵庫労山会報、県連ニュース(和歌山労山)

発行日 2020 年(令和 2 年)8 月 24 日 No.415

編集・発行 入澤、笠井、園、高橋、中井、中尾、大西清

\*\*\*\*\*